

- 問1 人工衛星の雲画像とは、どのような場所から、何を撮影した（さつえい）ものですか。
- 問2 風が強くなり、雨の量が多くなるのは、台風がどのような動きをしているときですか。
- 問3 全国の約1300か所にある気象観測所で、雨の量や風の強さなどを自動的に観測し、集計するシステムを何とといいますか。
- 問4 台風による大雨（ふ）が降ること（ふ）で、水不足が解消されるのはなぜですか。
- 問5 台風の進路予想図で、台風（はんい）の中心が進むと考えられる範囲を円で表したものを何とといいますか。
- 問6 気象衛星の画像は、どこからの情報をもとにして、何を表した（はんい）ものですか。
- 問7 冬に、日本海側で雪をふらせたあとの乾燥（かんそう）した風が山をこえてふいてくるため、晴れる日が多くなるのはどこの天気（かんそう）ですか。
- 問8 空全体を10としたとき、雲の量が9から10のときの天気は何（かんそう）ですか。
- 問9 日本付近の雲の動きにともなって、天気はどのように変化（かんそう）していきますか。
- 問10 弱い雨（はんい）を広い範囲（はんい）にわたって、長い時間降らせる特徴（ふ とくちょう）を持つ雲の名前は何（はんい）ですか。
- 問11 台風が近づいて強い風や大雨になると、どのようなことが起こるおそれ（はんい）がありますか。
- 問12 台風のまわりをふく風は、どのような形の流れ（はんい）になっていますか。
- 問13 台風が日本付近に近づくことが多いのは、何月ごろから何月ごろにかけて（はんい）ですか。
- 問14 台風が発生する場所（はんい）は、地球のどのあたり（はんい）にある海（はんい）ですか。
- 問15 夏の空などによく見られ、「入道雲」という別名でも呼ばれる雲（はんい）は何（はんい）ですか。
- 問16 「ツバメが低く飛ぶと、どのような天気（はんい）になる」という言い伝え（はんい）がありますか。

答え合わせ・解説 No.5

問1	答え 宇宙から地球を撮影し、雲の様子を表したもの	人工衛星の雲画像は、宇宙にある人工衛星から地球を撮影して、雲の様子を表したものです。
問2	答え 自分たちの場所に近づいてくるとき	台風が自分たちの場所に近づいてくるにつれて、風が強くなり、雨の量が多くなっていきます。
問3	答え アメダス	全国の約1300か所の気象観測所で、雨の量や風の強さなどを自動的に観測して集計する仕組みをアメダスといいます。
問4	答え ダムや川にたくさんの水がたまるから	台風がもたらす大量の雨がダムや川に流れ込んで蓄えられるため、水不足が解消されます。
問5	答え 予報円	台風の中心が進む（動いてくる）と考えられる範囲を円で表したものを「予報円」といいます。
問6	答え 宇宙にある気象衛星からの情報をもとに、雲の様子を表したもの	気象衛星の画像は、宇宙にある気象衛星からの情報をもとにして、雲の様子を表した画像です。
問7	答え 冬の太平洋側の天気	日本海側で雪をふらせて水分が抜けた風が山をこえてふくため、冬の太平洋側では晴れて乾燥する日が多くなります。
問8	答え くもり	空全体を10としたとき、雲の量が9から10のときの天気を「くもり」といいます。
問9	答え 西から東へと変化していく	天気は雲の動きにつれて、西から東へと変化していきます。
問10	答え らんそう雲	弱い雨を広い範囲に長い時間降らせる特徴を持つ雲は、らんそう雲と呼ばれます。
問11	答え 強い風や大雨によって、災害が起こる。	台風による強い風や大雨は、私たちの暮らしに様々な災害をもたらす原因になります。
問12	答え うず状	台風のまわりでは、うず状の風がふいています。
問13	答え 8月から9月ごろ	台風は、1年のうちで8月から9月ごろにかけて日本付近に近づくことが多くなります。
問14	答え 南の方の海	台風は、南の方の海上で発生します。
問15	答え 積らん雲	積らん雲は、入道雲とも呼ばれる特徴的な雲です。
問16	答え 雨が降る	「ツバメが低く飛んだら雨が降る」という、天気に関する有名な言い伝えがあります。